

東北大大学院 ワークショップ報告会



公共政策院生が提言

東北大公共政策大学院の学生によるワークショップ報告会が19、20の両日、仙台市青葉区の東北大片平キヤンパスであった。人口減少対策やまちづくりなど四つのテーマで、1年かけて取り組んだ調査研究の成果や提言を発表した。

◇ 院生や公共政策大学院への進学を考えている学生ら約60人が参加した。大学院1年の10人でつくるグループは、外国人旅行者に農村や漁村での生活を研究の成果を発表する学生

人口減少やまちづくり 研究の成果披露

体験してもらおう「農泊」などを研究した。農泊は全国約500地域に広まる一方、外国人から見た農泊の魅力や適正価格を現地で把握できていない点を課題に挙げた。

グループは「民泊の経営状況を全国調査し、サービス水準の底上げに生かす必要がある」と提言した。

農林水産物の輸出をテーマにした大学院1年喜多遥輝さん(24)は、輸出品を広域で取りまとめて輸送費を抑え、手頃な価格にする仕組みを提案した。

喜多さんは「会場から価格を据え置いて生産者の利潤を上げるべきではないか」と意見をもらい、新たな発見だった。研究の参考にした」と話した。